

令和2年度第3回（第24回）ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会

議事次第（Web会議）

I 開 会

II 教育委員会挨拶

III 報 告

令和2年度の取組について（12月～）

IV 意見交換

1 1人1台端末を活用した授業の実現に向けて ～全県の取組提案～

2 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査について

3 その他

V 事務連絡

次回日程について

VI 閉 会

I C T利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会の運営について

平成 27 年 5 月 29 日

I C T利活用教育の推進に
関する事業改善検討委員会

1 趣旨

I C T利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会（以下「改善検討委員会」という）の運営については、以下のとおりとする。

2 改善検討委員会

- (1) 座長は、議長として、会議を進行する。
- (2) 座長がやむを得ない理由により改善検討委員会の会議に出席できないときは、改善検討委員会に所属する委員のうちから座長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

3 会議の公開

改善検討委員会は原則として公開とする。ただし、座長が非公開とすることが適当と認める場合には、その一部又は全部を非公開とする。

4 議事概要の公開

改善検討委員会の議事は、議事概要等をホームページへの掲載等により公開する。ただし、座長が非公開とすることが適当と認める場合には、その一部又は全部を非公開とする。

令和2年度「ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会」委員名簿

(五十音順・敬称略)

令和3年1月現在

氏名	所属・職名等
あまの まさあき 天野 昌明	佐賀県市町教育長連合会 会長（鳥栖市教育委員会 教育長）
いたばし えりや 板橋 江利也	佐賀大学教育学部 学部長
いで みほこ 井手 美保子	佐賀県教職員組合 執行委員長
えぐち ひろふみ 江口 浩文	佐賀県小中学校長会 副会長（佐賀市立嘉瀬小学校 校長）
かげやま ひでお 陰山 英男	陰山ラボ代表 教育クリエイター
くぼ かずひこ 久保 和彦	佐賀県小中学校長会 会長（神崎市立神崎中学校 校長）
さいとう もえぎ 齊藤 萌木	東京大学 CoREF 高大接続研究開発センター 高大連携推進部門 特任助教
さえき みゆき 佐伯 美由紀	佐賀県PTA連合会 母親副委員長兼理事（中学校）
さとう まさひろ 佐藤 正浩	Windows クラスルーム協議会 事務局
たぐち こうき 田口 弘毅	佐賀県高等学校教職員組合 書記長
たけした しげみ 竹下 繁己	佐賀県PTA連合会 副会長（小学校）
なかにし みか 中西 美香	佐賀商業高等学校 主幹教諭 （佐賀大学大学院 学校教育学研究科 客員准教授 兼務）
なかの あつし 中野 淳	日経BP コンシューマーメディア局 局長補佐
なかむら かつとし 中村 勝敏	佐賀県教職員連合会 執行委員長 （大町町立大町ひじり学園前期課程 教諭）
にしおか ゆたか 西岡 豊	佐賀県高等学校PTA連合会 会長
のなか よういち 野中 陽一	横浜国立大学大学院 教育学研究科 教授
もりもと たかひこ 森本 貴彦	佐賀新聞社 編集本部 メディア局 局長
やました やすたか 山下 康孝	佐賀県スーパーティーチャー（唐津東高等学校 教諭）
わたなべ なりき 渡邊 成樹	佐賀県高等学校長協会 会長（佐賀西高等学校 校長）

令和2年度第3回（第24回）
ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会
資料

資料1 令和2年度の取組（12月～）
佐賀県教育フェスタについて

資料2 令和2年度の取組（12月～）
オンライン授業の実施について

資料3 令和2年度の取組（12月～）
AIとクラウドに関する勉強会の取組について

資料4 1人1台端末を活用した授業の実現に向けて～全県の取組提案～

資料5 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査について

令和3年2月16日（火）
佐賀県教育委員会

令和2年度の取組について(12月～)

佐賀県教育フェスタ

令和2年度 教育フェスタ ～人づくりGIGA・SAGA～



令和2年度 佐賀県教育フェスタ ～人づくりGIGA・SAGA～

GIGAスクール構想の実現に向け、「一人1台端末教育効果活用した授業づくり」がこころい!

日時 令和2年12月12日(土) 13:00から【受付12:30から】
 会場 佐賀市文化会館 中ホール(佐賀市日の出1丁目21-10)
 主催 佐賀県教育委員会 共催 佐賀県内20市町教育委員会

YouTube ライブ配信 ≡ SagaKouhouMovie ≡
 放送 13:00から16:40 ※実施日を含め3日後に動画削除予定
 URL <https://www.youtube.com/user/SagaKouhouMovie>

オープニング 鳥栖商業高等学校 伝統音楽部・琴部 13:00から ～2020年度文化祭特別 企画演奏及合唱 (ライブ生中継)	高校生ICT活用 プレゼンテーション大賞 14:15から 16:15まで 高校生もプレゼン 能力を磨き、授業により 効果的に活用
GIGAスクール構想の実現に向けた 取組事例発表 13:20から 「さががやい」の授業!	児童生徒ふるさと学習コンクール 優秀作品表彰及び発表 15:10から 各地域の児童生徒が 取り組んだふるさと学習 作品を、とどろびについて 観る機会を設ける

申込方法は **事前申込み**が必要です。
11月30日(月)までに下記まで
 電話もしくはEメールにてお申し込みください。

会場は、新型コロナウイルス対策のため
 座席数を制限させていただきます。
 当日参加はできませんので
 ご了承ください。

申込み・お問い合わせ先

ICT活用教育に関すること 担当 学校教育課 教育情報化支援担当 電話 0952-25-7363(直通) Eメール saga-ict@pref.saga.lg.jp	さがを誇りに思う教育に関すること 担当 学校教育課 特別活動担当 電話 0952-25-7048(直通) Eメール saga-kyouiku@pref.saga.lg.jp
---	---

<開催趣旨>

新しい時代(Society5.0)の到来に向け、県民一丸となった“チームさが”による人づくりを進めていく。

<令和2年度の重点>

- ・プロジェクトEの推進
- －GIGAスクール構想の実現に向けて－
- ・さがを誇りに思う教育の推進

令和2年度 教育フェスタ ～人づくりGIGA・SAGA～

GIGAスクール構想の実現に向けた取組事例発表



<全県の取組提案>
全県の取組提案… 佐賀県教育委員会

<県立学校の取組発表>
1人1台活用… 致遠館中学校
オンライン活用… 唐津工業高等学校

<市町の取組発表>
教育委員会及び学校の取組… 鳥栖市教育委員会



令和2年度 教育フェスタ ～人づくりGIGA・SAGA～

高校生ICT利活用プレゼンテーション大会



令和2年度 教育フェスタ ～人づくりGIGA・SAGA～

高校生ICT利活用プレゼンテーション大会

効果的な動画活用



相手意識の追求



スライドとリンクするパフォーマンス

令和2年度の取組（12月～） オンライン授業の実施について

非常時におけるオンライン授業の実施

☆学校閉鎖時のオンライン授業の実施状況

(2月5日現在)

実施学校	実施日	備考
佐賀工業高校（全日制）	1月20, 21, 22日	25日～ 自宅待機生徒に 対面授業を同時配信
鳥栖商業高校	1月25, 26日	27日～ 自宅待機生徒に 対面授業を同時配信

☆オンライン授業配信に備えた資機材の整備

資機材名	数量	備考
・ヘッドセット	教員1人につき1台	Bluetooth・片耳タイプ タブレット内蔵よりも広角 ポート数は4 三脚も合わせて（定・通は+1）
・Webカメラ	教員1人につき1台	
・USBハブ	教員1人につき1台	
・書画カメラ	クラスに1台	
・ビデオカメラ	各校3台（学年1台）	
・HDMI/USB変換アダプタ	各校3台（学年1台）	

非常時におけるオンライン授業の実施

配慮すべきこと・他校に伝えたいこと（主なもの）

- ・校内研修会を頻繁に開催し、講習会への参加を粘り強く呼びかけた(SK)
- ・若手職員にまず熟達してもらい、教員同士が協力して支援する体制を構築(SK)
- ・オンライン授業は避けられない→完成度を高くしすぎず、できる範囲で実施(SK)
- ・操作確認とスキルアップのため、時々オンラインでの確認授業ができればよい(TS)
- ・周辺機器や各種アプリは、日頃からの使用でスムーズな授業展開が可能に(TS)
- ・生徒や教員が混乱しないように、特別時間割ではなく、通常的时间割で実施(SK)
- ・オンライン授業に切り替わった時の時間割を周知しておく(TS)
- ・生徒にチャットを利用させ、授業としてのキャッチボールを成立させる(SK)
- ・一方的な授業にならないように、生徒とのコミュニケーションを重視(TS)
- ・学年単位で生徒向けに授業支援ツールのマナー講習を実施(SK)

非常時におけるオンライン授業の実施

オンライン授業を実施した教員の感想（主なもの）

- 黒板を使用して行ったが、普段の授業と変わらず有効であった。(SK)
- Bluetoothヘッドセットは有効であった。(SK)
- 生徒たちの上達が早く、スムーズにオンライン授業ができた。(TS)
- 思った以上に回線がつながり、無事に実施することができた。(TS)
- ライブ配信は思っているより良かった。(TS)
- △ 回答した生徒がすぐにわからず、ほめるタイミングがずれる。(SK)
- △ 意欲の高い生徒と低い生徒の、理解度や反応が分かりにくい。(SK)
- △ フルタイムでリモート授業を行うのは疲れた。(SK)

非常時におけるオンライン授業の実施

オンライン授業を受講した生徒の感想（主なもの）

- ヘッドセットのマイクで声もよく届いた。（SK）
- （保護者より）きちんとリモート授業を受けていて安心しました。（SK）
- 顔合わせできる機会を作っていただき嬉しかった。（TS）
- いつもの授業のように勉強を進めることができたので良かった。（TS）
- チャットがあるので発表しやすい。オンライン授業は楽しい。（TS）
- △ カメラの位置によっては、黒板が見えにくい時があった。（SK）
- △ 声が聞き取りにくい時があった。（SK）
- △ わからないときにすぐに聞いて解決できないところは不便だ。（TS）

非常時におけるオンライン授業の実施

実施してみたの困りごと・要望など

- ・パスワード忘れの生徒への電話対応に追われた。（推進リーダー）
- ・校内ネットワーク回線の増強をお願いしたい。
- ・教室に常設のカメラがあれば便利だと思う。
- ・出席者を特定するのが大変であり、一目で誰か分かるアバターが必要。
- ・本人を示すアイコンの変更禁止や制約が厳しすぎてやりづらい。
- ・壁に向かって授業している感があり、生徒の了承を得て、数名でも画像と音声をリアルタイムで把握できれば、より良い授業ができると思う。
- ・スムーズにできた分、オンライン授業をあてにされることについて、学校がどう対応していくかは今後の課題だと思う。

令和2年度の取組(12月～)

AIとクラウドに関する勉強会の取組について

AIとクラウドに関する勉強会



AIとクラウドに関する勉強会

AIに関する勉強会①(オンライン)

- 実施日:令和2年12月21日 午前
- 実施校:白石高等学校 商業科キャンパス
- 参加生徒:情報ビジネス科2年生 38人 (教員3名)



AIとクラウドに関する勉強会

クラウドに関する勉強会②(オンライン)

- 実施日:令和2年12月21日 午後
- 実施校:伊万里、武雄、唐津青翔
有田工業
- 参加生徒:54人 (教員17名)

AIに関する勉強会③(オンライン)

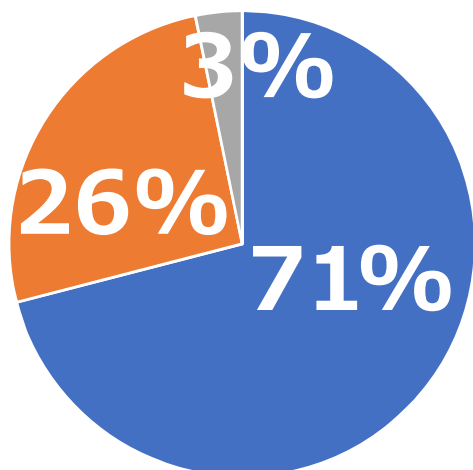
- 実施日:令和2年12月23日 午後
- 実施校:伊万里、武雄、小城、太良、
有田工業、唐津青翔
- 参加生徒:59人 (教員13名)



AIに関する勉強会

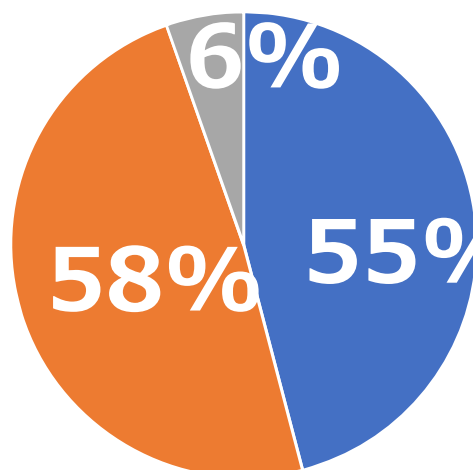
生徒の感想（白石高校）

AI勉強会に参加して



■とても満足 ■満足 ■やや不満 ■不満

AI勉強会参加の目的

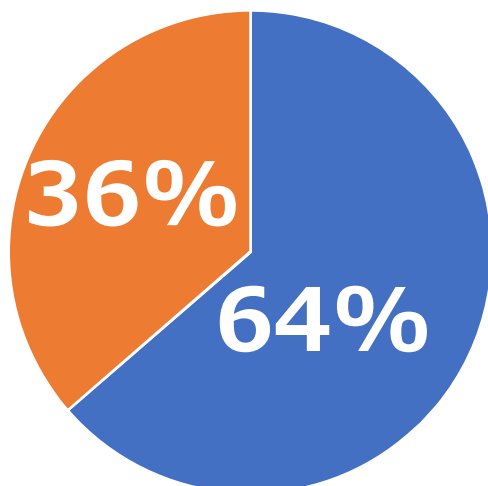


■進学に役立つ ■就職に役立つ ■その他

クラウドに関する勉強会

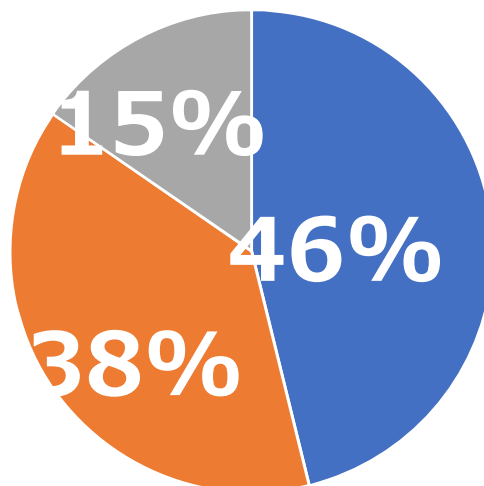
生徒の感想（佐賀県立学校）

クラウド勉強会に参加して



■とても満足 ■満足

クラウド勉強会参加の目的



■進学に役立つ ■就職に役立つ ■その他

AIとクラウドに関する勉強会



生徒の感想(白石高校)

- 新しいことを学ぶことができてよかった
- とても分かりやすかった
- 進学のために勉強したかった
- 試験を受けたみたいと思うようになった
- 実際にAIを作ってみたい
- 実技の勉強会も開催してほしい

AIとクラウドに関する試験

現在の状況

- 今後も学校での試験実施を希望する学校がある
- 佐賀県立学校における試験実施の検証実施
⇒ 試験の実施が可能であることを確認



1人1台端末を活用した授業の実現に向けて

～全県の取組提案～

主体的に社会と関り、自ら学び続け、
豊かさを創造していく「人」



超スマート社会を創る「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
を身に付けた「子ども」

学びのSAGANアップデート

～1人1台端末で創る「広がる・深まる・つながる」学び～

授業
改善

- ・これまでの教育実践とICTのベストミックス
- ・個別最適化された授業の実現
- ・学びの広がり、深まり、つながりの追求
- ・限られた時間の有効活用
- ・共通理解と共通実践



PROJECT E

全ての子供たちの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの実現へ

社会情勢
の変化

- IoT、AI等をはじめとする技術革新により社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 多様化する子供たちに対応するための公正に個別最適化された学び実現への期待
- 感染症の広範囲に及ぶ流行や災害など危機事象対応への必要性の高まり

これまでの教育実践とICTのベストミックス

1人1台端末で学びが変わる

各教科等における1人1台端末の活用例

音楽、図画工作、美術、工芸、書道

表現の可能性を広げたり、鑑賞を深めたりする
 ・タブレットPCやソフトウェアを活用した、リズムづくりや動く工作、アニメーションの制作など、表現の可能性を一層広げる
 ・各自が曲の興味のあるところを繰り返し聴くなどして、よさや美しさを味わうことや、ネットワークなどを活用して作品などについて感じたことや考えたことなどを共有する



家庭、技術・家庭

アイデアを可視化したり、実習等を振り返ったりすることで、問題解決を充実する
 ・動画等で実習・調査等を振り返り、評価・改善する
 ・3D CADを活用して設計を最適化する



情報

実習で、コンピュータや情報通信ネットワークなどのICTを積極的に活用し、アウトプットの質と量を高める
 ・情報を統計的に処理して判断する
 ・活動や情報技術を活用して問題解決をする

生活科、総合的な学習（探究）の時間

振り返りや表現に活用し、活動への意欲を高める（生活科）

- ・対象の拡大提示や記録した情報の伝え合いから興味関心や意欲を高める
- ・取組を映像で客観的に振り返り、自ら実感しにくい活動のよさに気付く
- 情報の収集・整理・発信による探究の質的向上を図る（総合）
- ・実社会から多様な方法で集め、蓄えた情報から課題を設定する
- ・インターネット、電子メール、WEB通信アプリ等を活用した取材
- ・蓄積したデータから必要な情報を取捨選択し、ソフト等を用いて分析
- ・プレゼンテーション、サイトによる発信など、再構成した情報を幅広く伝える

体育、保健体育

記録をデータ管理し、運動への意欲をもち、新たな課題設定に役立てる

- ・データ管理したこれまでの自己の記録を比較することで、伸びを実感したり新たな課題を設定したりする
- ・ゲームの様子を撮影した動画を見返し、次のゲームに向けての作戦を考える



外国語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める

- ・一人一人が海外の子供とつながり、英語で交流・議論を行う
- ・ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める



特別の教科 道徳

道徳性を養うための学習活動における効果的な活用

- ・子供が自分の考えを端末に入力し、共有して他者の考えを知りながら、それぞれの考えの根拠に基づき議論することで、多面的・多角的に考える
- ・子供が議論を通して道徳的価値の理解を深めた後、自己を見つめて考えを端末に入力し、教師がそれを把握、整理して、全体に共有する

特別活動

集団や自己の生活上の課題を解決する（学級活動・ホームルーム活動）

- ・生活場面を撮影するなど、必要な情報を収集し、学校生活や社会の問題を見いだす
- ・個人の意見を表明し意見を分類・整理する
- ・解決方法を集団として合意形成、個人として意思決定する
- ・実践を撮影して共有し、振り返り次の課題解決につなぐ

特別支援

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするためにICTを活用
 障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するためにICTを活用

令和2年度 文部科学省配布資料

個別最適化された授業の実現

1人1台端末で個別のニーズに応じる

- ・各人が同時に別々の内容を学習できる
 - ・各人の学習履歴が自動的に記録される
- 一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習
 や個に応じた指導が可能に



令和2年度 文部科学省配布資料

ICTならではの効果で 個に応じた指導の充実

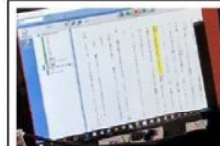


それぞれ自分の紹介したい国を伝え合う児童（佐賀県内市立小学校）



個に応じて適切な問題が配信されるWebドリルに取り組む生徒（佐賀県立高校）

読み上げ機能や書き込み機能の活用



例) 文字を音（オン）に変換することが苦手だったり、時間がかかったりするため、文字を音読したり、黙読したりすることが苦手な児童生徒に対して、読み上げ機能の活用により内容理解の支援が可能

例) 音（オン）を文字に変換することが苦手だったり、時間がかかったりするため、文章を書いたりすることが苦手な児童生徒に対して、書き込み機能の活用により表出の支援が可能

令和2年度 文部科学省配布資料

学びの広がり、深まり、つながりの追求

一人一台端末で良質な学びを創る

SAGANアップデートで目指す

良質な学び



広がり

- ・表現の幅が広がる
- ・興味関心が広がる
- ・価値が広がる

深まり

- ・議論が深まる
- ・思考が深まる
- ・理解が深まる

つながり

- ・知識がつながる
- ・学習履歴がつながる
- ・想いがつながる



学び続ける

教職員

児童生徒

保護者・地域

広がる学び

- ・教科を横断して
- ・学年の枠を超えて



- ・表現の幅が広がる
- ・興味関心が広がる
- ・思考が広がる
- ・価値が広がる



さまざまな表現方法を駆使してプレゼンテーションを行う生徒（佐賀県立高校）

深まる学び

- ・ 試行錯誤して
- ・ 多角的・多面的に考察して
- ・ 学習内容を振り返って
- ・ 何度も繰り返して
- ・ 見える化して



- ・ 議論が深まる
- ・ 思考が深まる
- ・ 理解が深まる

音声認識ソフトを使用して英語のスピーキング練習を行う生徒
(佐賀県立高校)



自撮りした動画を使ってパフォーマンスチェックを行う生徒
(佐賀県立中学校)



試行錯誤しながら動きをプログラミングする児童 (佐賀県内町立小学校)

つながる学び

- ・ 情報を蓄積・整理して
- ・ 過去の情報に触れて
- ・ 遠く離れた誰かと結んで
- ・ クラウドを利用して
(SEI-Netほか、様々なクラウドサービス等)



- ・ 知識がつながる
- ・ 知識を共有する
- ・ 学習履歴がつながる
- ・ 想いがつながる
- ・ 学校と家庭の学びがつながる

これまでに学んだ情報を引き出しながら協働学習を進める生徒 (佐賀県内市立中学校)



タブレットに詰め込んだ想いを共有する児童 (佐賀県内市立小学校)



同時双方向型オンライン授業に参加する生徒
(佐賀県立高校)

学びの広がり、深まり、つながりの追求

良質な学びの見取り

学び	どのようにして	どうなる	具体的な児童・生徒等の姿(例)	
広がる学び	<ul style="list-style-type: none"> 教科を横断して 学年の枠を超えて 	・表現の幅が広がる	・学んだ手法に捉われず新しい技術等を用いて多様に表現する	・写真・音声・動画等のマルチメディアを活用してプレゼンテーションを行う
		・興味関心が広がる	・学年や教科の枠を超えて新しい情報取得への意欲が高まる	・小学生が工業高校生のものづくり動画を視聴し旋盤技術の追求を始める
		・思考が広がる	・課題解決に向かう中で関連する新たな方向性への関心が高まる	・ネットの情報から自分が構想し得なかった新たな実験方法を思いつく
		・価値が広がる	・一定の範囲をもって形成されている考えがより多くの意味を含むようになる	・「努力」に対する考えを交流することを通して様々な「努力」の在り方を受け入れる
深まる学び	<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤して 多角的・多面的に考察して 学習内容を振り返って 見える化して 	・議論が深まる	・多様な考えを交換しながら集団としての最善解を導き出す	・共同制作のパンフレットの内容を互いの意見を取り入れながらより良い方向に向かって検討する
		・思考が深まる	・個において課題解決に近づく新たな問いが次々と生みだされる	・プログラミング教材で繰り返し試行し新たな問いを重ねることで結論に近づく
		・理解が深まる	・既習事項と新しく獲得した知識が結びつき体系化して整理される	・野球やサッカーで軸足が大事だと学んだことが柔道にも使えることに気づく
つながる学び	<ul style="list-style-type: none"> 情報を蓄積・整理して 過去の情報に触れて 遠く離れた誰かと結んで クラウドを利用して 	・知識がつながる	・既習事項と現在の学習内容が連続性・関連性をもって理解される	・3D描画アプリを使用し図形の面積の求め方が立体の体積の求め方に応用できることに気づく
		・知識を共有する	・距離や時間に捉われず広く情報交換ができる	・ばらばらに取材活動に出かけた先からクラウドを利用してリアルタイムに情報共有する
		・学習履歴がつながる	・学習に関する強みや弱み(つまずき)が記録され次の学びに生かされる	・デジタルドリル教材を使用し各々のペースで学習を進める
		・想いがつながる	・一人の想いが多くの人々に伝わったり次の世代に引き継がれたりする	・環境問題についての個人の取組がネットを通じた情報発信により社会運動に発展する
		・学校と家庭の学びが つながる	・学校と家庭の学びがシームレスなものになる	・家庭に持ち帰った学習用端末で学校での学習の続きを行ったり課題を担任へ提出したりする

限られた時間の有効活用

1人1台端末で時短・効率化が進む



<子供>

- ホワイトボードを囲んでグループの考えを書き込む
→ デジタルノートを共有して離れた場所からも協働作業
- ノートや教科書、教室掲示をもとに学習の振り返りを行う
→ 保存していたデジタルノートのデータや板書画像を検索・閲覧
- 対象物をスケッチしながら観察記録を作成する
→ 1人1台端末で静止画・動画を撮りためて自在に加工

<教師>

- 紹介したいノートや作品等を拡大印刷して見せる
→ 電子黒板とつないで児童生徒の画面を瞬時に大画面表示
- 課題を紙に印刷して配布・回収する
→ 教師用端末から一斉送信・児童生徒用端末から随時提出(回収)
- アンケートを紙で印刷し配布・回収して集約する
→ アプリを使用して短時間で作成・実施・集約・グラフ化



ICTの効果で時間を生み出す

共通理解と共通実践

1人1台端末で佐賀県のせんせいがひとつになる

学びのSAGANアップデート

～1人1台端末で創る「広がる・深まる・つながる」学び～

授業改善

- ・これまでの教育実践とICTのベストミックス
- ・個別最適化された授業の実現
- ・学びの広がり、深まり、つながりの追求
- ・限られた時間の有効活用
- ・共通理解と共通実践

さが
すたいる



各種研修等によるフォロー

- ・初任者研修
- ・3年経験者研修
- ・管理職研修
- ・訪問支援
- ・教育情報化推進リーダー研修
- ・プレゼンテーション研修
- ・佐賀県教育フェスタ
- ・教育センター各種希望等研修

人的・物的環境整備

良質な学びの創造を支える環境づくり

令和3年度重点的取組

プロジェクトEプラス

市町教育委員会の
GIGAスクール構想を
全面バックアップ

+

県立学校のネットワーク
環境の高度化を推進

<取組例>

市町展開サポート事業

- ・市町への技術的助言や情報提供の体制整備を行います。

GIGAスクール構想支援事業

- ・エリアコーディネーターを配置し、市町立学校の支援強化を図ります。

小・中・高を通じた英語教育強化事業

- ・佐賀県独自の英語指導目標の統一基準を作ります。
- ・英語学習用デジタル教材を作成し、小・中・高を通じた指導法改善のための研究を行います。

校内LAN整備費

- ・学校内のネットワーク環境を高度化し、学習環境や校務の利便性向上を図ります。



大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査 【令和2年度（左）、令和元年度（右） 比較】

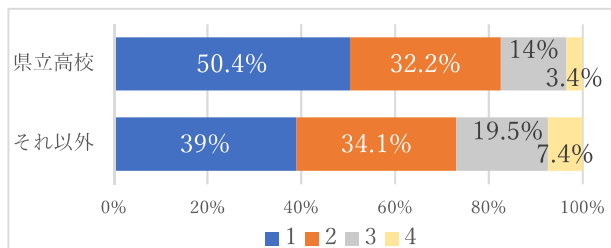
できる…1、ややできる…2、あまりできない…3、できない…4

調査時期：令和2年11月
 対象：県内の4年制大学に在籍する1年生
 県内公立高校 n=121 それ以外 n=369

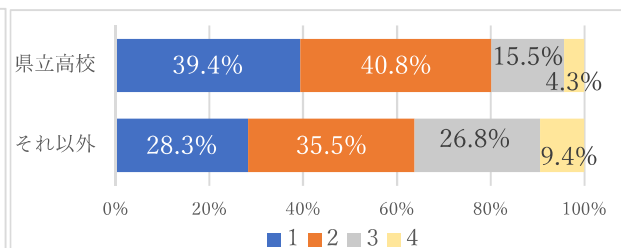
調査時期：令和元年10月
 対象：県内の4年制大学に在籍する1年生
 県内公立高校 n=213 それ以外 n=456

①1分間で40文字程度の速さでタイピングすること。

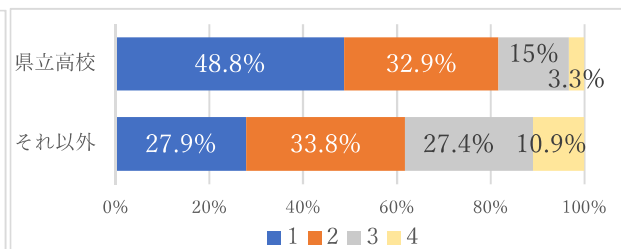
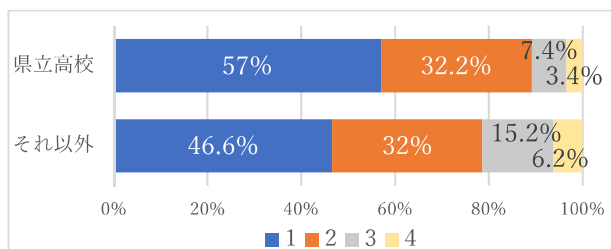
<令和2年度>



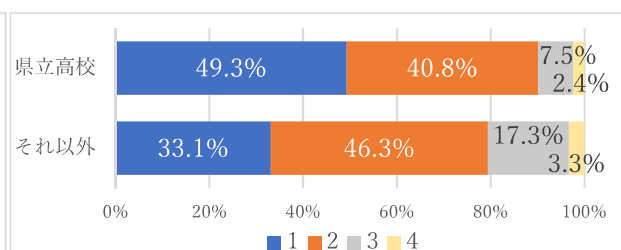
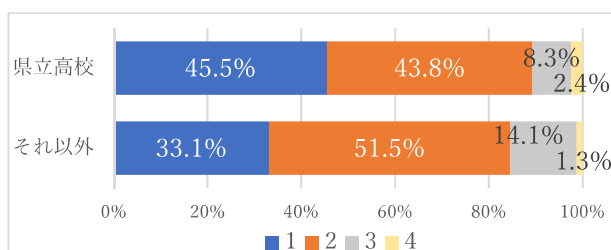
<令和元年度>



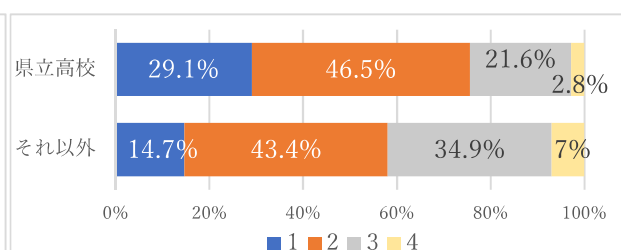
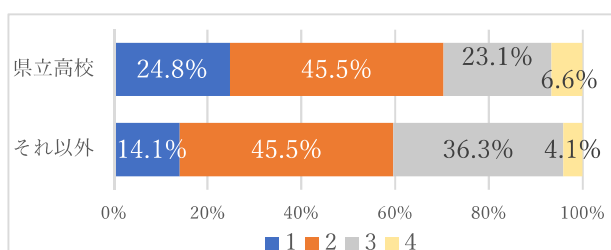
②関連するファイルを一つのフォルダにまとめたり、フォルダの階層化を行うなどファイルを整理したりすること。



③主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、フォントや段落などを工夫し見やすい文章として作成すること。



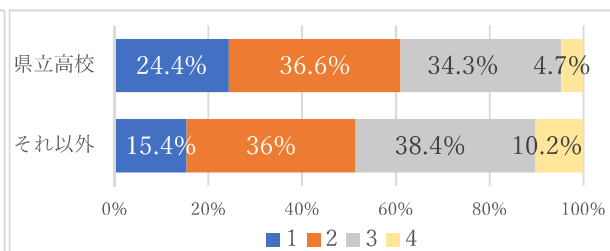
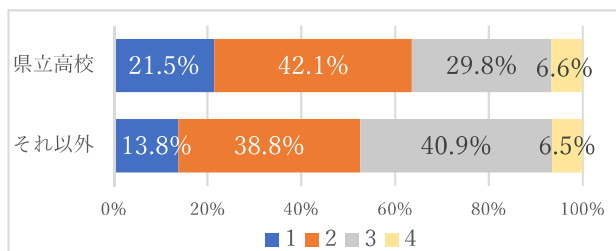
④主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、図や表などを使い、説得力のある文章として作成すること。



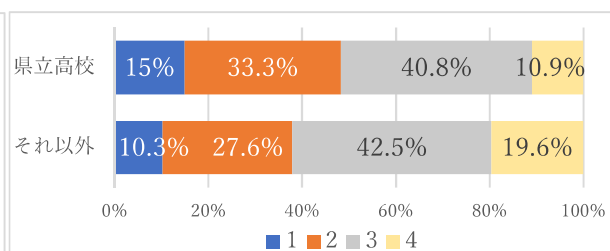
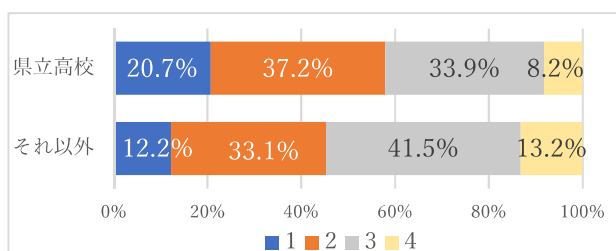
⑤主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、グラフや表を用いて、比較ができるように作成すること。

<令和2年度>

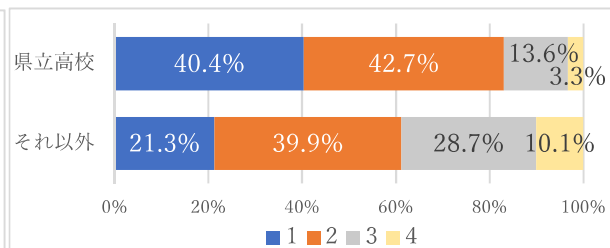
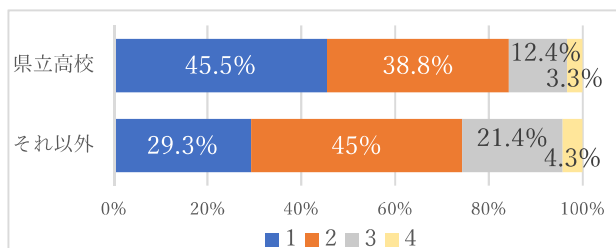
<令和元年度>



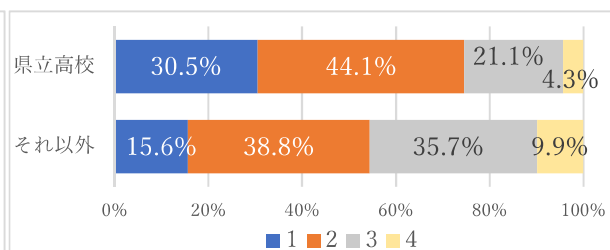
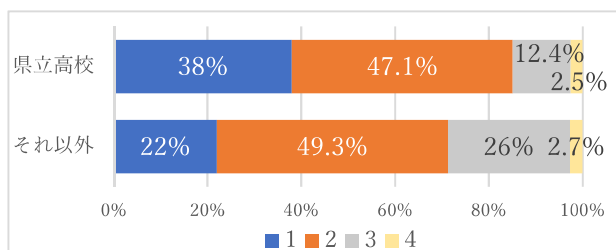
⑥主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、集めたデータを簡単な関数や数式を用いて分析すること。



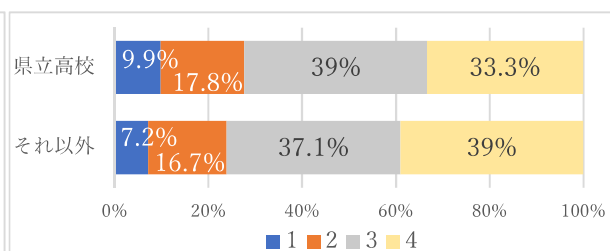
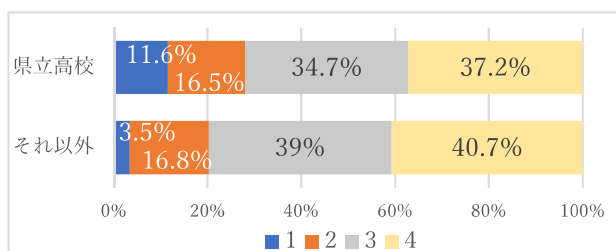
⑦主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、図やグラフなどをスライドに挿入して分かりやすくすること。



⑧主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、スライドの順序や論理性に注意し、自分の考えを伝えるようにすること。

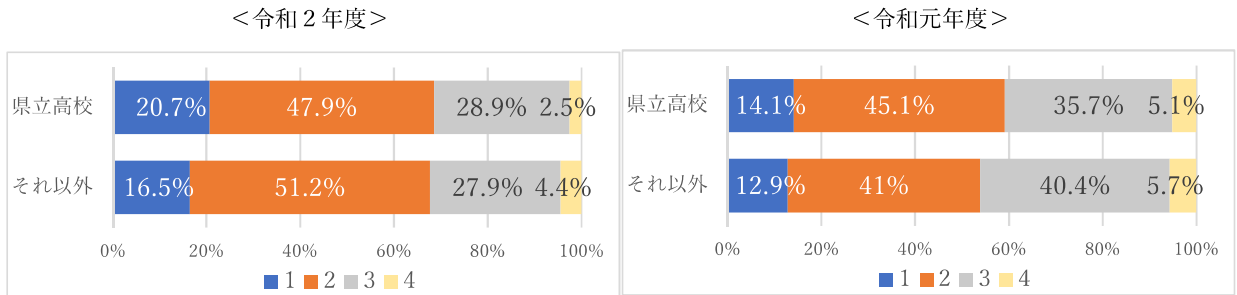


⑨簡単なプログラミングをすること。

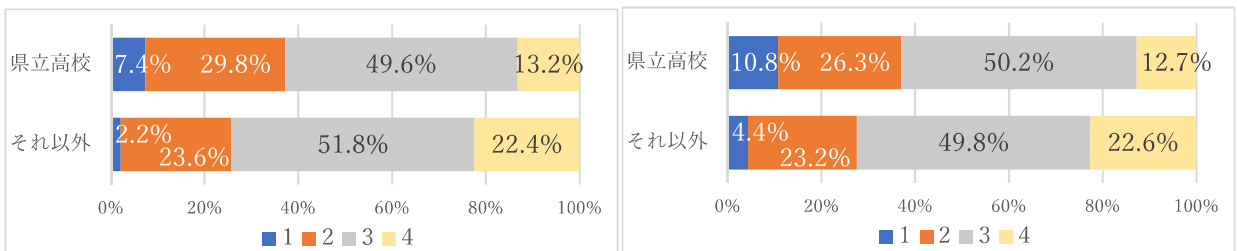


よくする…1、時々する…2、あまりしない…3、全くしない…4

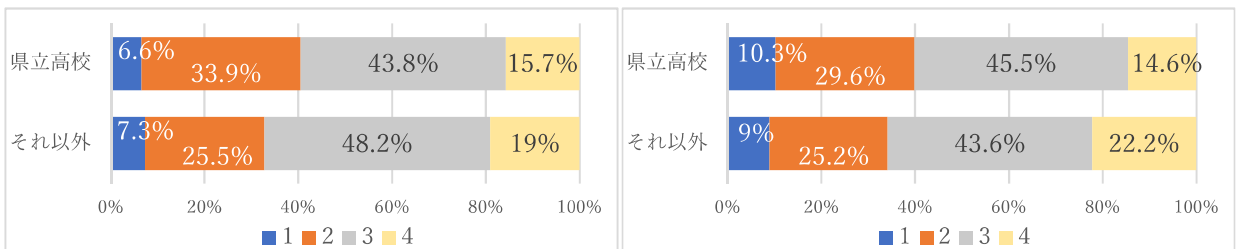
1. 発表の際、自分とは異なる視点での質問があることを想定すること。



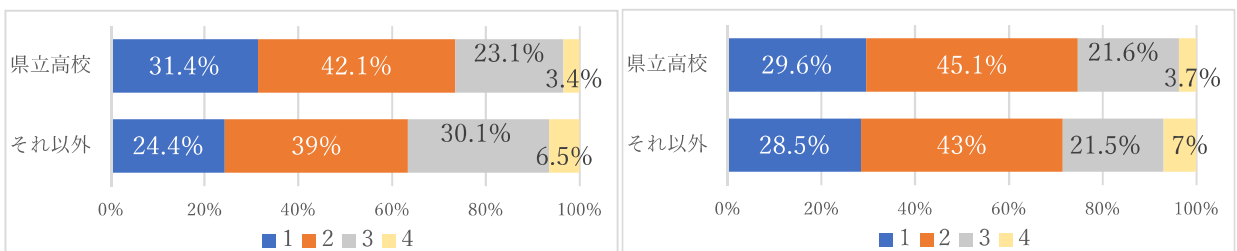
2. 簡単なフローチャートなどの手順図を描いて作業を進めること。



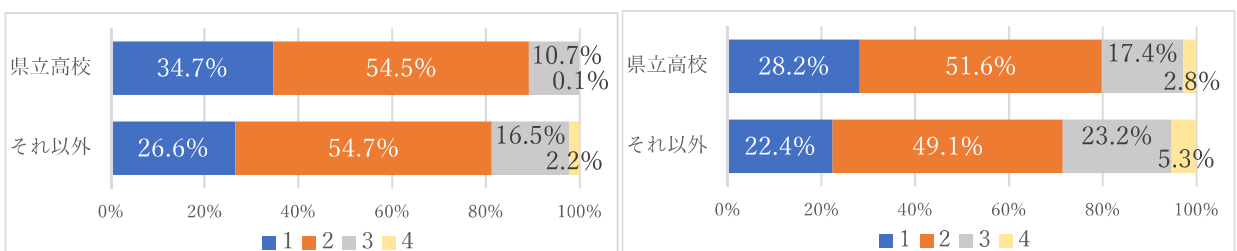
3. ソフトやアプリを活用して、互いの考えを交換し共有すること。



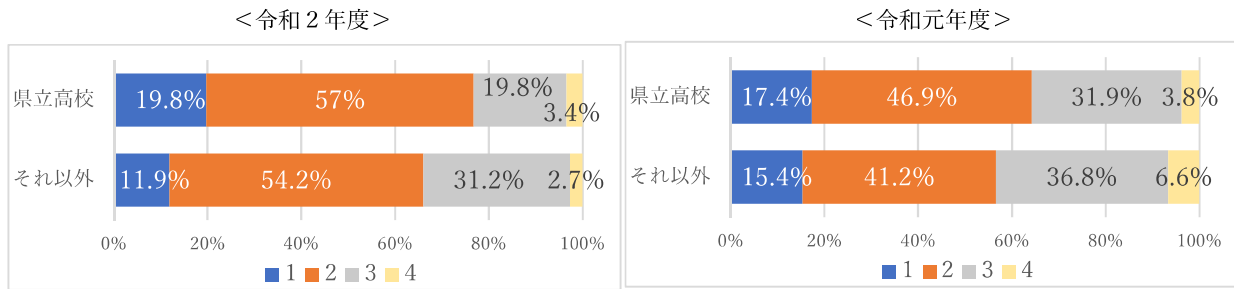
4. 必要な情報を得る際、インターネット（検索）や図書、新聞など調べる手段を使い分けること。



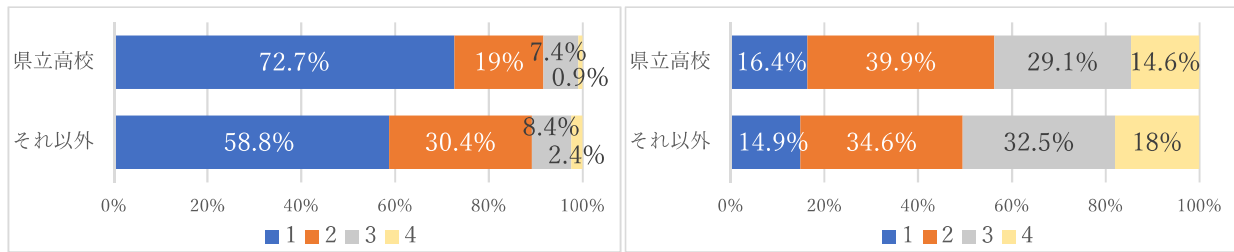
5. 得られた情報が正しいものかどうかを根拠をもとに判断すること。



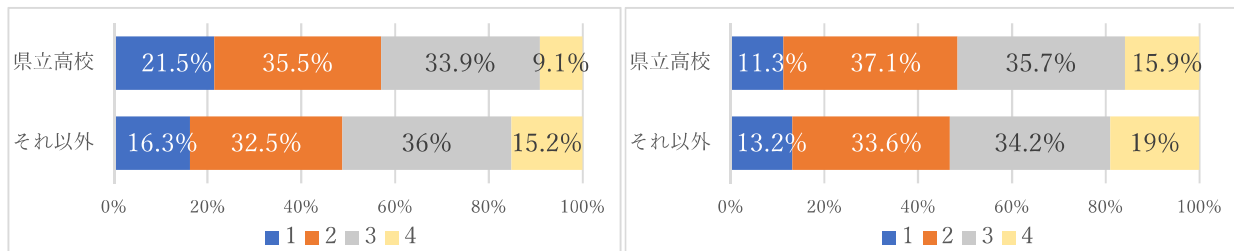
6. 表やグラフなどの複数の資料から必要なものを選び、変化や傾向を読み取ること。



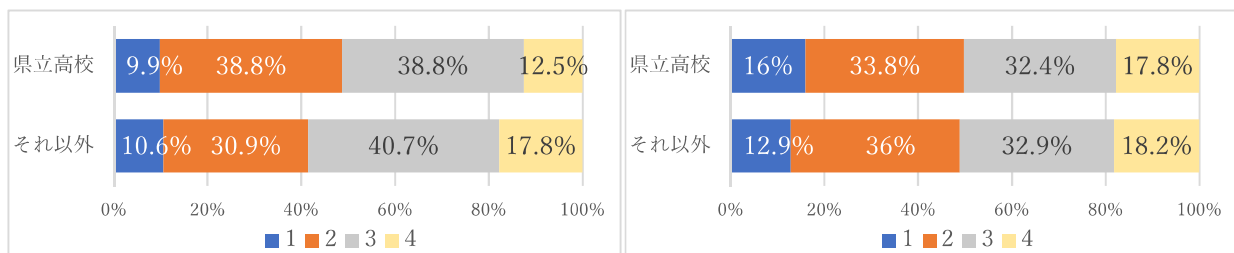
7. 動画サイトなどで講義や授業の動画をみること。



8. インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解くこと。



9. 学習ソフトやアプリを使って勉強すること。



令和2年度 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査

佐賀県教育庁 学校教育課

佐賀県のICT利活用教育を推進するにあたり、高校時代のパソコン使用が大学生活にどのような影響を与えているかを把握するため、高校時代のパソコン使用の状況と、大学1年生現在の情報活用の状況をおうかがいするアンケートを用意しました。つきましては、皆様の声をお聞きかせいただき、ICT利活用の充実について検討したいので、ご協力をお願いいたします。

該当する項目にチェック(✓)または記述をお願いします。

1. 出身高校や、高校時代に自分専用のパソコンを使っていたかどうかについて教えてください。
下の□にチェックを入れ、該当する丸数字を()内に記入してください。

- 佐賀県内の公立高等学校①
- 佐賀県内の私立高等学校 } 自分専用のパソコンを持っており日常的に使っていた②
- 佐賀県外の公立高等学校 } 自分専用のパソコンを持っていたがあまり使っていなかった③
- 佐賀県外の私立高等学校 } 自分専用のパソコンは持っていなかった④ (↓)

2. あなたは、次のことがどのくらいできますか。 「できる…1」、「ややできる…2」、「あまりできない…3」、「できない…4」 ↓

1	1分間で40文字程度の速さでタイピングすること。	
2	関連するファイルを一つのフォルダにまとめたり、フォルダの階層化を行うなどファイルを整理したりすること。	
3	主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、フォントや段落などを工夫し見やすい文章として作成すること。	
4	主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、図や表などを使い、説得力のある文章として作成すること。	
5	主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、グラフや表を用いて、比較ができるように作成すること。	
6	主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、集めたデータを簡単な関数や数式を用いて分析すること。	
7	主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、図やグラフなどをスライドに挿入して分かりやすくすること。	
8	主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、スライドの順序や論理性に注意し、自分の考えを伝えるようにすること。	
9	簡単なプログラミングをすること。	

3. あなたは、次のことをどのくらいしますか。 「よくする…1」、「時々する…2」、「あまりしない…3」、「全くしない…4」 ↓

1	発表の際、自分とは異なる視点での質問があることを想定すること。	
2	簡単なフローチャートなどの手順図を描いて作業を進めること。	
3	ソフトやアプリを活用して、互いの考えを交換し共有すること。	
4	必要な情報を得る際、インターネット(検索)や図書、新聞など調べる手段を使い分けること。	
5	得られた情報が正しいものかどうかを根拠をもとに判断すること。	
6	表やグラフなどの複数の資料から必要なものを選び、変化や傾向を読み取ること。	
7	動画サイトなどで講義や授業の動画をみること。	
8	インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解くこと。	
9	学習ソフトやアプリを使って勉強すること。	